

グループホーム かもめの家

症 例 概 要 利用者:90代 要介護4

病名:アルツハイマー型認知症

利用サービス:グループホームかもめの家 3階フロア

(入居平成19年7月中旬～現在)

経過:2019年12月にトイレ内で転倒。左大腿骨転子部骨折の診断でI病院に入院。Ope後1月下旬に退院。車椅子での生活を余儀なくされ、活気および表情が乏しく食事量も低下傾向だったが、多職種連携により日常生活リハビリに力を入れ、自力歩行できるまでに回復した事例。

内 容

平成19年の入居より12年間、台所に立ち料理を職員と笑顔で作り、独歩で歩行されていました。2019年12月、トイレ誘導時に職員が一瞬目を離した際にトイレ内で転倒。左大腿骨転子部骨折でI病院に入院となりOpe施行。退院後は車椅子生活となり、活気もなく食事量も低下。食事もペースト食や栄養補助食品を用いての栄養補給が限界であり、離床することも体力的に厳しく静養時間が長くなっていました。離床していてもコミュニケーションも乏しく、意欲のない状態となってしまいました。

笑顔で台所に立つ利用者さんに戻って欲しいと願い、静養時に積極的な声かけ、管理栄養士からの食事アドバイス、医療連携看護との連携により、次第に表情にも笑顔が増え食事も常食に変更。ご自身で茶碗を持って召し上がるまでに回復していきました。

また、歩行リハビリの内容をPTに相談。アドバイスを伺い、はじめは職員2人が前後を支えて歩行練習を実施。痛みが強く、初めはなかなか歩く意欲を引き出せませんでした。次第にご自身で掴まり立ちができるようになり、短距離での歩行練習を日常的に実施。徐々に両手での支え歩行から立位の踏ん張りが強くなり、片方は手摺り、片方は職員が手を繋いで歩行するまで回復していきます。3月下旬には夜間帯、自らベッドから起き上がり、室内を自身で歩かれるまでになりました。2か月間という短期間でここまで回復できたのはチームの力と思い、そして何よりご本人に残こされている力であると強く感じました。

ご家族(長女様)からも「ここまで元気になって、本当にうれしいわ。」「職員の皆様のおかげです。」とお言葉を頂戴しております。退院後の様子からして、元気になる予測もないほど表情は乏しく、以前の利用者さんとは別人のようでした。食事の重要性、日々の関わりを持つことでの刺激、チーム一丸と

なってリハビリに力を入れたことで、自分の足で歩くという尊厳を利用者さんは取り戻すことができました。

利用者さんには輝きの笑顔と1日を、ご家族には安心を超えた感動、職員にはやりがいと成長の場をというValue(価値)を見出すことができたこの症例はキラキラ介護賞に値すると思い推薦させていただきます。